

「認知症でも安心して暮らせる」とは？～呼ばれて 飛び出て ジャジャジャジャーン～

沖縄県認知症介護指導者 羽地克也

キーワード: 笑って逝ける宮古島

活動の概要(活動の主体:個人)

【活動目的】

認知症という病気とその症状や対応方法は、「人」を知り、「人」に向き合う事が大事な一歩であることを前提に、学生や家族、多くの市民に考えてもらえる場を提供すること。また、指導者として、認知症の人の言動や行動に病的根拠も含まれている事を理解し、対応方法をより本人に寄り添った内容にしていくためにどうしていくか？を伝える事を意識するようにし、理解を広げていける様に活動している。

【活動内容】

・認知症家族会みやこ(認知症の人と家族の会沖縄県支部宮古地区会 兼務)・若年認知症専門員・キャラバンメイト・宮古介護福祉士の会 を主に、当事者や家族、学生から機会を頂いて実習なども含めて話し合う場を設けている。

活動のきっかけ、背景(指導者としての立場で)

僕が初めて介護をした 27 年前、「痴呆症」と言われている時期に、「これからの介護は、痴呆症の人をどれだけ対応できるか？が大きく関わってくる。」と感じ、以降「認知症」に関わる研修などに参加しました。指導者研修も、15 年越しに受講でき、終了後は指導者になった事で、より「伝える」方法や内容にも意識をもって行うようになった。



活動の経過と成果

【活動の経過】

【認知症家族会みやこの活動】認知症家族会みやこの活動は 10 年を迎える。認知症家族会みやこの事務局、認知症の人と家族の会沖縄県支部宮古地区会の代表も並行で行っている。今年はコロナ禍で難しい状況の中、離島地区への出張開催を令和 2 年 10 月に行った。【キャラバンメイト(沖縄県立宮古総合実業高等学校生活福祉課)】学童から一般まで対象は広く、沖縄県立宮古総合実業高校との関りは 7 年ほどになる。初任者研修夏季集中講座を 3 年開催した。今年はコロナ禍で「認知症になっても安心して暮らせるために」と題して 3 年生 14 名にサポーター養成講座を行った。講座終了後アンケートには、「認知症についてより理解できた」という返答を多くいただいた。(回収率は 100% 回答率は 95%)【若年認知症専門員】若年認知症専門員は、10 名定員の枠に多い時で 4 名、現在も 1 名の利用者が 10 年間、継続的に利用中。【宮古介護福祉士の会】

宮古介護福祉士の会の活動が一番長く 14 年になる。宮古島市では新型コロナウイルス感染症を機に他団体と連携を取り合うことになり、現在も施設間の人員支援体制について、県や市の行政も含めて話を進めている。

【活動の成果】

最近では認知症についての講義依頼もあり、家族会では三役の地域にある課題などの相談もある。学生は「介護してみたい。」と事業所に来て話したり、若年認知症の方は機能が維持され、宅生活の継続に大きく成果を出していると考えている。最近では、他事業所からの相談も受けるなど専門職向けの関りは増えた。地域までもっと広く関わりたいが、やっと入り口に立った感覚でいる。

今後の展望

利用者や家族、これまで関わりのある場所以外、地域へ広く関わりが持てるように活動を広げられたらと感じている。現在、コロナ禍の事業所連携等も県や市の行政機関、福祉事業の他団体と協働で進めている事もあり、今後はコロナ以外のパイプとしても協働できる場としていければと考えている。宮古島市の認知症施策に関わる指導者を目指します。